

比較家族史学会

会報 比較家族史 45

事務局 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-7 弘文堂気付
郵便振替(会費) 00130-4-25222 (年報バックナンバー・その他) 00180-3-604964

二〇〇五年比較家族史学会秋季研究大会

日 時 二〇〇五年十一月二日(土)

会 場 撰南大学二二号館二二四一教室・一二五一教室(別掲)

地図参照)

問合せ先 〒五七二-1850 大阪府寝屋川市池田中町七番

八号

撰南大学法学部 牧田 勳

電 話 〇七二八三九一九二八一

F A X 〇七二八三八一六六三六

■十一月二日 日程(午前九時受付開始 九時半開始)

☆A会場(二二四一教室)

□会長挨拶 岩本山輝(東北学院大学)

九時三〇分〜九時四〇分

□講 演 村武精一(東京都立大学名誉教授)

我が研究生活を振り返って

九時四〇分〜一〇時二〇分

□総 会 一〇時二〇分〜一〇時四〇分

☆A会場(二二四一教室)

・高木侃(専修大学)

武士の離婚と離縁状―新史料の紹介をかねて―

・辻垣晃一(国際日本文化研究センター)

鎌倉時代における「悔返」の法理

一〇時四〇分〜一〇時五十分

□昼 食

・荒木康代(関西学院大学大学院)

近世大坂の「家」と「町」と「業」

一一時〜一三時四五分

・島津良子(奈良女子大学)

幕末旗本家の主君押し込めと姻戚

一三時四五分〜一四時三〇分

□休 憩

一四時三〇分〜一四時四〇分

□ミニ・シンポジウム

日英村落史的対比研究における「家族」・「世帯」・「家」

―イギリス社会経済史の経歴を通してみた田上山藩上塩

尻村一

・高橋基泰

「趣旨説明」

・高橋基泰

事例報告 家系と「戸」の日英村落比較

一四時四〇分〜一四時五五分

・長谷部弘

家業・家産の維持と家系―佐藤マケの事例から―

一四時五五分〜一五時二〇分

・山内太

土地所有の継承・断絶から見た家系譜

—原マケの事例から—

一五時五〇分～一六時二〇分

・田島昇

馬入道一件をめぐる人と家

—山崎マケの事例を中心に—

一六時二〇分～一六時五〇分

・討論

一六時五〇分～一七時四〇分

☆B会場（一二五一教室）

・堀内キミ子（城西国際大学大学院）

現代における核家族世代の相続納税事情

—埼玉県草加市の事例を中心に—

一〇時四〇分～一二時二五分

・吉長真子（東京大学大学院助手）

一九三〇年代の日本における農村の

「産育習俗問題」

—恩賜財団愛育会の愛育村事業と産

育習俗調査から—

一一時二五分～一二時一〇分

□昼 食

・山田千香子（長崎県立大学）

人の移動・墓の移動

一三時～一三時四五分

□ミニ・シンポジウム

やもめ（寡婦）の処遇

・椎野若菜（青山学院大）

趣旨説明…人類学における寡婦の研究

と比較研究の試みへ

一三時四五分～一四時一五分

・小田亮（成城大学）

西ケニア・クリア社会のレヴィレート

と寡婦たちの戦術

一四時一五分～一四時四五分

・阿久津昌三（信州大）

アフリカの王権、ジェンダー、寡婦

儀礼—人間不平等起源論序説—

一四時四五分～一五時一五分

□休 憩

・馬場淳（東京都立大学大学院）

「振る舞い」をめぐる政治学

—バプアニューギニア・クルテイ社

会における婚姻と寡婦—

一五時三〇分～一六時

・服藤早苗（埼玉学園大学）

日本における後家の成立過程と役割

一六時～一六時三〇分

・討論

運営委員 牧田勳・三成美保・鈴木七

美・栗原弘

一六時三〇分～一七時四〇分

■運営委員会からのお知らせ

一 研究大会の出欠については、同封の葉書にて、十一月七日（月）までにお知らせ下さいますようお願いいたします。なお、大会参加費は一五〇〇円です。会員以外の参加も歓迎します。

二 本年より秋季の大会は一日だけの開催となり、懇親会はありません。昼食は上曜日で学生も少ないと思われるので、大学の食堂をご利用ください。

三 研究大会の会場は、別紙交通アクセスの地図と会場図をご参照ください。会場は摂南大学正門を右側の建物が、正面の六号館を右に曲がったところが入口となっております。当日、案内を出しますので、それにしたがっておいでください。

四 今回の研究大会は、秋季の大会開催方式の変更にあわせ、実験的に二会場にわかれて分科会方式で行ないます。移動は自由ですので、ご自由に会場をお選びください。

五 報告者のレジュメは、十一月五日までに原稿を摂南大学法学部牧田勳宛に送っていただければ、当方で用意します。未着の場合には、恐縮ですが、ご自分でご用意ください。必要な部数は、後日連絡させていただきます。

■三二・シンポジウムの趣旨説明

☆A会場

日英村落史的対比研究における「家族」

「世帯」・「家」

—イギリス社会経済史の経緯を通してみ
た田上田藩上塩尻村—

本ミニ・シンポジウムでは、イギリスの農村家族を念頭において近世期における上塩尻の「家族」の特徴を考える。最近、日本の近世期農村家族については歴史人口学の分野での研究が多大な成果を挙げてきている。しかし、宗門改帳を中心に得られた歴史人口学的データは、村落・コミュニティの文脈に指定された家族に関しては社会経済史との「対話」が従来十分ではなかったのではないだろうか。本申請者は研究グループでイギリスと日本の村落の史的対比研究に従事してきているが、近年イギリスでも、家族をめぐる研究では人口史・社会経済史・社会人類学的アプローチが融合つつある。だが、史料のあり方としては本研究グループが上塩尻村一村で掌握しているような素材はいまだに見当たらない。とくに家系譜の研究は、歴史学と系譜学の深い溝がある状況下、十分になされてきたとは言

えない。それゆえこれまでのイギリス地域研究では、コミュニティの研究・横断的な親族関係の研究・世代継承の研究はあるが、家の系譜を村の枠組みで研究した研究はほとんどない。ここではそうしたイギリス地域経済事例研究が個々に残している研究視角を家系譜の領域でまとめ、「家」の系譜関係と村落コミュニティの一体性を立体的に上塩尻で再現し、日本の近世村落における家族のあり方を以下の点から浮かび上がらせたい。

- 1 家系譜・宗門改帳・地方住民調査
- 2 世帯・家業・経営
- 3 土地保有と金融
- 4 五人組・講

☆B会場 やもめ(寡婦)の処遇

ある男女が結婚によっていったん家族を築いたものの、配偶者の死という事件がおきたとき、残された家族は大きな変化を経験する。ある社会では、再婚という形で新たな家族を生み出す方法がとられるかもしれないし、「レヴィレート」という制度で家族を再編する方法がとられるかもしれない。夫を亡くした妻は、実家に戻って暮らすかもしれない。時代によって、地域によって、その対処の仕方はさまざま違いが見られるはずである。国家

の政策、女性の地位の捉えられ方によっても大きく異なることは、いうまでもないだろう。では、そうしたさまざまな状況のなかで、やもめやその家族はどのように生きていた、生きていたのであるか。

私の専門である社会—文化人類学において、やもめという立場になった人々に注目してみると、これまでさして深い研究がなされてこなかったことが分かる。その理由は近代人類学が成立した当時の学風や、やもめが社会的マイノリティであるなど、いくつか考えられる。その所以か、やもめに関する社会制度を示す「レヴィレート」と「寡婦相続」などの用語の使用方法にも、少々混乱がみられる。

結婚制度は社会によってさまざまであり、また寡婦/寡夫にたいする処遇も社会によってさまざまである。たとえば、私が調査するケニア・ルオは父系の、夫多妻社会であり、いわゆる「レヴィレート」という社会制度は人びとによって広く認知されている。寡婦たちの生活に密着して観察すると、これまで主体性が認められないと描かれがちであった寡婦も、さまざまな背景、属性をもった男女との関係性のなかで、この制度を利用して生活を営んでいると観察されるのである。つまり、「結婚したカップル」から外れた社会のマイノ

リテイである寡婦に注目することで、当該社会の結婚制度をふくむ社会制度や社会組織の特性、ジェンダーやセクシュアリティをめぐる関係性などがみえてくると考えられる。

人間社会において、結婚という社会制度は多様な形態をもちながらも存在するのであり、と同時に、妻を亡くした寡婦、そして夫を亡くした寡婦という存在も一時的であれ、存在するものである。では彼／彼女たちは、配偶者を亡くしたあと、当該社会においてどのように生きてきた／生きているのだろうか。今回はとくに寡婦に注目し、地域、時代を超えて、当該社会や国家が寡婦とその家族にたいしどのような対処をしてきたのか、その条件下で人びとはどのように生活実践をしてきたのか、見ていきたい。配偶者の死という事件に遭遇したとき、対処するためにやってきた人間の知の多様性を明らかにすること、そしてその多様性からその時代の、当該社会の特性を浮かび上がらせることが、この企画の目的である。

「やもめ」をテーマにしている研究者を探するのは、企画の段階において、困難もあった。このシンポを機会に、さらなる比較研究の展開を模索したいと思っている。各分野からのコメント、そして共同研究のための参加を募

りたい。

■事務局からの連絡

1 会費納入のお願いと連絡

年会費は、個人会員は三〇〇〇円です。今回は会費未納分のある方に振込用紙を同封しております。住所ラベルの右下の既納年度(平成一七年一〇月一八日現在)が更新してありますが、同日以降の振込み、および行き違いの節はご宥怒ください。また、学校法人名で振り込まれるときは、必ず通信欄に会員氏名をお書きください。

なお、今年度会費分につきまして、平成一七年六月二三日に「学校法人追手門学院理事長大木令司」様名の振込分がどなたのものかわかりません。お心当たりのある方は、左記の事務局までご連絡ください。

2 学会関連書籍の購入について

これまでたびたびお願い申し上げましたが、現下の出版状況から、特に会員および会員の所属各大学図書館での学会関連書籍購入方につき、特段のご協力をお願いいたします。

「シリーズ比較家族」は早稲田大学出版部、「事典家族」は弘文堂、「家族―世紀を超えて」は日本経済評論社にご注文ください。

ほかの書籍を含めて二割引で購入できます。なお、その際には、必ず比較家族史学会の会員であることをお申し出ください。

早稲田大学出版部(担当 新井)

電話 03-3203-1551

FAX 03-3207-0406

弘文堂(担当 浦辻)

電話 03-3294-7003

FAX 03-3294-7034

日本経済評論社(担当 谷口)

電話 03-3230-1661

FAX 03-3265-2993

3 「比較家族史研究」バックナンバーについて

「比較家族史研究」の既刊分の総目次はHPに掲載予定ですが、既刊分(三号までは一冊五〇〇円に値下げして販売しております。在庫処分にご協力ください。なお、創刊号から四号までは在庫がありません。購入希望の方は学会事務局へご連絡ください。

4 事務局連絡先

〒九八〇一八五 宮城県仙台市青葉区

土樋一丁目三一 東北学院大学文学部

政岡伸洋研究室気付 比較家族史学会

電話 022-721-3359(直通)

FAX 022-264-3030(総務課)

Email

■理事会議事録

日 時 二〇〇五年五月二十七日(金)

一八時三〇分

場 所 山形大学人文学部第二会議室

出席者数 三一名(委任状を含む)

1 新入会員および退会の承認について

次の新入会員四名(別項参照)および海老沢美広、大平幸美、加藤裕子、高島正人、中島邦、宮下美智子、立山ちづ子、寛久美子、桑山敬己、長島淳子、渋谷知美、西嶋友子、黒木三郎の一三名の退会が承認された。

また、これまで検討されていた比較家族史学会規約一三条三項の適用について、二〇〇四年度分より実施することになった。

なお、今回は最初の適用ということで、五年以上の会費未納者を対象とした結果、生野正剛、石井昭彦、石橋誠、石渡佳美、林在圭、入江和夫、岩堀容子、上田富士子、上野和男、大島新一、大西恵子、河野元子、河村望、喜山朝彦、久留島浩、小暮幸子、佐藤健二、佐藤宏、塩谷千恵子、関啓子、関民子、高倉良一、高松靖、棚村政行、寺本千里、鳥光美緒子、福田亘孝、藤井忠俊、松本(中筋)由紀子、森下敏男、山脇貞司、楊昭、米地實、日本家系協会、崔弘基、李

末善の三六名の退会処理についても承認された。

2 比較家族史研究について

第一九号について、永原慶二先生の追悼号とするなどの編集方針が報告され、承認された。

3 シリーズ比較家族について

シリーズ比較家族第Ⅲ期第三巻、田中真砂子・白石玲子・三成美保編「国民国家と家族・個人」四二〇〇円(税込)が六月に刊行される予定であることが報告された。また、現在編集作業中の「沖繩とジェンダー」「生殖技術と家族」の進捗状況の報告もなされた。

4 学術会議関連事項について

学術会議のあり方が大きく変わることに伴い、その対応について協議した。また、基礎法シンポに対して、協賛金を出すことも承認された。

5 次回研究大会について

二〇〇五年度より、これまで年二回開かれていた研究大会を五月の一回とし、秋は理事会と小規模な研究会を行うことが承認された。

6 その他

比較家族史学会HPの維持・管理につい

て、その充実に向けて今後も話し合っていくことになった。

■総会議事録

1 新入・退会会員について

新入会員四名、退会者一名のほか、今回から比較家族史学会規約一三条三項を適用することになり、その条件を充たす三名の退会も報告された。

2 比較家族史研究について

「比較家族史研究」第一九号が刊行され、永原慶二先生の追悼号となることが報告された。

3 シリーズ比較家族について

各巻の進捗状況が報告された。

4 学術会議関連事項について(基礎法シンポ後援等)

学術会議のあり方が大きく変化することへの対応、基礎法シンポへの後援について報告があった。

5 次回研究大会について

本年度より研究大会が年一回の開催となること、それとは別に東京以外で、日程度の研究会を開くことになったことが報告され、今年秋は秋に摂南大学で研究会が行われることが報告された。

6 その他

二〇〇四年度の会計報告が行われ、承認された。

■新入会員

伊藤栄晃（関東学園大学、英国地域社会史）
山内太（長野経済短期大学、経済史）
福井栄二郎（神戸大学大学院生、社会人類学）
磯部香（奈良女子大学大学院生、女性史）

■会員著書・受贈著書

（単行本・事務局に連絡があったもの）
沢山美果子「性と生殖の近世」勁草書房、二〇〇五年、三五〇〇円（税別）

比較家族史学会 2004年度会計報告

一般会計

収入の部	2004年度	2003年度	増減
前年度繰越金	2,514,601	1,902,467	612,134
会費	1,483,620	1,517,700	-34,080
年報販売	135,297	226,528	-91,231
著作権料	24,000	82,000	-58,000
大学補助	0	0	0
印税	0	0	0
利子	54	59	-5
収入合計	4,157,572	3,728,754	428,818
支出合計	1,921,207	1,214,153	707,054
次年度繰越金○	2,236,365	2,514,601	-278,236

○：年報印刷・新名簿は次年度会計

内訳

みずほ残高	1,015,134	889,649
郵便貯金残高	1,221,231	1,624,952
	2,236,365	2,514,601

特別会計

前年度繰越金	3,983,319	3,983,251	
郵便貯金・A	2,300,000	2,300,000	定期
郵便貯金・B	1,683,319	1,683,251	
利子	68	68	
次年度繰越金	3,983,387	3,983,319	

内訳

郵便貯金・A	2,300,000	2,300,000	定期
郵便貯金・B	1,683,387	1,683,319	

支出の部	2004年度	2003年度	増減
大会運営費	150,000	150,000	0
印刷費			
封筒	80,400	35,400	45,000
会報*1	124,000	40,000	84,000
年報*2	470,936	503,654	-32,718
その他	15,000	9,000	6,000
名簿*3	0	0	0
送料	326,595	212,285	114,310
発送事務費	135,000	76,400	58,600
事務関係費	27,133	22,459	4,674
シリーズ編集費	0	0	0
振込手数料*4	1,155	1,705	-550
委託費*5			
名簿管理	30,000	30,000	0
文献整理*6	0	60,000	-60,000
HP作成	0	50,000	-50,000
年報関連費*7	171,514	0	171,514
新名簿関係	133,589	0	133,589
学術会議関連費	30,000	0	30,000
理事会開催費	122,230	23,250	98,980
役員選挙関連費	87,905	0	87,905
慶弔費*8	15,750	0	15,750
合計	1,921,207	1,214,153	707,054

*1：会報42～44号は3回分

*2：今年度年報も次年度会計

*3：名簿作成は3年毎

*4：会費振替手数料は一括会費と差し引きにした

*5：一括して費目を設けた

*6：04年度分は次年度会計

*7：02・03年度分、04年度は次年度支払い

*8：永原慶二氏分

会計監査

山中永之佑 ・ 藤井正雄